

# Beginner & Scooter class



## Scooter class

順位	No	チーム名	マシン	順位	No	チーム名	マシン
1	27	旬彩むら田withケンジャー	Dio	14	38	TEAM JMX 山ちゃん組	Dio
2	3	へっぽこ道場	JOG POCHE	15	26	旬彩むら田K	JOG
3	100	モータースボックス	ホンダ	16	25	旬彩むら田ケイキ	ホンダ
4	93	へっぽこ道場	ホンダ	17	110	Team Leifon	ホンダ
5	65	KPC	ダクト	18	67	日蓮市工高生会青年部吹上	JOG
6	24	PRC (ハイパライダースクラブ)	Dio	19	66	KPC	JOG
7	1	APUクラブ15組	Dio	20	67	TEAM JMX MIXコンランド	ストリートマシク
8	69	1989 (昭和44) 年式	ホンダG'	21	89	R.O.帽子	ストリートマシク
9	83	へっぽこ道場	ストリーム	22	64	KPC	ピーウィズ
10	7	博康会館原さくら病院B	Dio	23	380	帯海racing teamはじまして	ストリートマシク
11	12	博康会館原さくら病院A	ハイアップ	24	333	トリアルズ	Dio
12	6	SARAGE GO	ストリートマシク	25	12	ジョッカー指宿支部	Dio
13	9	T-4	セピア				

## Beginner class

順位	No	チーム名	マシン
1	008	005	セピアZZZ
2	723	レディーズGUNTALE	XR70R
3	20	藤原孝彦大	Dio
4	5	チーム87	PWS0
5	1	帯海racing team ルーキーズ	PWS0
6	8	へっぽこ道場	ホンダOR
7	999	team824	KX65

# Gentsuki Offroad Meeting G.O.M 2013

2013.12.15

m,S,I HOBBY オフロードコース  
鹿児島県鹿児島市溝辺町三瀬

“暦の上では December!” 大会



ご協賛  
ブリヂストン様、空港自動車学校様、KTM マルチディーラーフレックス様、モータースボックス徳留様、南海部品鹿児島グループ様、ハイガーズクラブ様、カービットタイヤショップ田口様、ハーレーダビッドソン鹿児島様、ヤマハ発動機様、MV アグスタジャパン様、ベトロナス様、TSR 様、きくすい堂様、旬彩むら田様、田上幼植園様、福田石油店様、康正産業様、徳留和樹様、柳川明様、徳留真紀様、NA ガレージ様 ※順不同

GOMとは原付オフロードミーティングの略で、2011年から2回開催されているバイクの運動会。主催は我々WSバイク。ほぼノーマルのスクーターやギア車でオフロードを走るのだが、参加者の年齢は下は5歳から上は60歳位まで。そして超初心者から全日本トッププレイヤーまで様々。GOMは決して原付の改造を促しているのではなく「誰でもモータースポーツ」を目的としている。安価な車両を数々の仲間と共有する事により参加コストを抑える事が出来る。しかも装備はレギュレーションこそあれなりに厳しい。変わらぬ所では、必ず全チームリョクを背負わなければならない。リョクはパトロールの代わりであり、中核ポジションを与えて万一の転倒時に補償する役目も果たす。

タイヤはオフロードタイヤの装着は可能だが、サスペンションの大幅な変更は禁止。クラスは初心者(車両は100cc以下)OK、50ccスクーター、ストリートマシク(50cc以下)、カブ、モーター、コレダ、YBIなど、アールレッドA、B、排気量は50cc、100cc位まででオイルレベルより区分。K/S等がA、カリ90等がBと5つに分かれる。それぞれが1時間を走り順位を競うのだ。

今大会で6回目となるが、実は全て快晴そして、今回は160名のエントリーとなったのだ!

参加者の半数以上は日頃から大型バイク等を楽しむライダーであるが、限界の低い原付はなかなかにライディングが難しくその全力で走る事が出来る。スリッパ発着はもちろん、バイクの新たな一面を知る事も出来るはず。GOMでは運転は支障をきたさないレベルではあるがコスプレも許している。コスプレイヤー(本格的なモトクロス装備のライダー)が走る姿は微笑ましい。(笑)

また、自分が出ていないクラスの時も積極的にオフイヤーに参加もお願いしている。これは「レースは走行者だけが成立しない!」という当たり前の事も知って欲しいから。

決勝レースは1時間耐久であるが予選はない。スタートは「超ル・マン式」というカッコある最後1コーナー前からのスタートで坂を登りバイクまで走り着くのである。バイクスタートさせ急降下が切れる。足がもつれる中、年が経って、最初にして一番の見所だ。突っ込みは全体的に走りやすいが、所は原付なのでかなり体力はいる。

決勝レースは1時間耐久であるが予選はない。スタートは「超ル・マン式」というカッコある最後1コーナー前からのスタートで坂を登りバイクまで走り着くのである。バイクスタートさせ急降下が切れる。足がもつれる中、年が経って、最初にして一番の見所だ。突っ込みは全体的に走りやすいが、所は原付なのでかなり体力はいる。

参加者の半数以上は日頃から大型バイク等を楽しむライダーであるが、限界の低い原付はなかなかにライディングが難しくその全力で走る事が出来る。スリッパ発着はもちろん、バイクの新たな一面を知る事も出来るはず。GOMでは運転は支障をきたさないレベルではあるがコスプレも許している。コスプレイヤー(本格的なモトクロス装備のライダー)が走る姿は微笑ましい。(笑)

また、自分が出ていないクラスの時も積極的にオフイヤーに参加もお願いしている。これは「レースは走行者だけが成立しない!」という当たり前の事も知って欲しいから。

アンリミテッドクラスは「森林コース」も設定され大自然も満喫出来る仕組み。とにかく原付からといってなめてかかるといふ目に合うし、間違いない痛み付きになるだろう。

今回「吉本ロードレース」5Bクラスのトップライダー「カワサキチームグリ」柳川明選手がお子さん達と参戦してくださった。初めて一緒にチームを組むという事で、完全に父の顔となりエンジョイしてくれたい。

GOMは多少の走行経験があれば小学生でも中学生でも参加出来る。夫婦や親子、時には親戚でチームを組む人もいる。この様なバイク遊びはなかなかない!

また、身体には5歳児以下を対象とした「ストライダー」模擬レースも開催される。ストライダーとはヘタルの無いハンスリンクの事で、幼少からこれに乗っているというハンスリンクが奪われなくなる。

参加は無料で子供達はお菓子の参加賞がもらえるし、数に限りがあるがストライダー正規ディーラーのモータースボックス鹿児島さんが試乗車も貸してくれるので購入するまで迷っている親御さんはチャレンジさせて様子を見てみるのもいいだろう。

全レースが終了するまで各クラスの表彰式が行われるが、今回の遠征は何と東京都から観光がから鹿児島まで訪れてくださった。他に全日本ロードレース「オカベ本レーシング」の徳留和樹選手が「カワサキアドバイザー」から「ホンダ賞」、柳川選手からは「カワサキ賞」が贈られ会場は盛り上がった。

そして最後は参加者全員に行き渡る豪華協賛品を巡ってジャンケン大会。レース上の熱い戦いが繰り広げられた。(笑)